

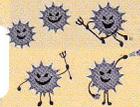
子宮けいがんの予防について ～HPVワクチンについて知ってください～

HPVワクチンは、**小学校6年から高校1年相当の女子**を対象とした定期予防接種です。令和5年4月より、子宮けいがんの原因の**80～90%**を防ぐことができる**9価のHPVワクチン**が、新たに公費で接種できるようになりました。

子宮けいがんを予防するために、下記についてご理解の上、是非HPVワクチンの接種についてご検討ください。



子宮けいがんとは？

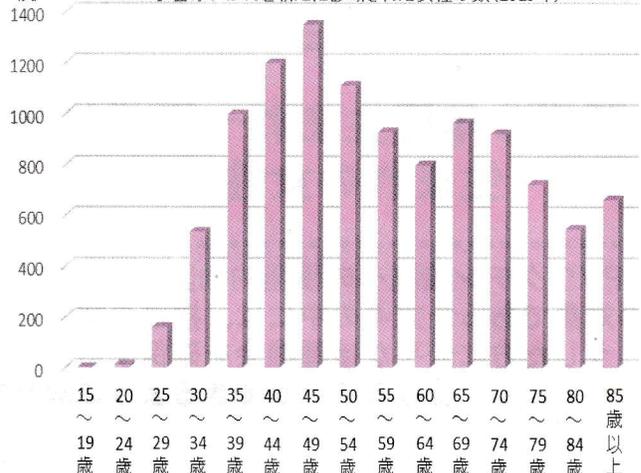


子宮けいがんは、子宮のけい部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。

日本では**毎年、約1.1万人の女性**が子宮けいがんになり、**毎年、約2,900人の女性**が亡くなっています。

25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮けいがんによるものです。HPVは一度でも性的接触の経験があれば、だれでも感染する可能性があります。

(人) 子宮けいがんと新たに診断された女性の数(2019年)



子宮けいがんで苦しまないためにできることは、**HPVワクチンの接種**と**子宮けいがん検診の受診**の2つです。
(HPVの感染を予防) (がんを早く見つけて治療)

HPVワクチンの効果

- ・ HPVの中には子宮けいがんを起しやすき種類のものがあります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。
- ・ 2価、4価ワクチンは、子宮けいがんの原因の**50～70%**を防ぎます。
- ・ 9価ワクチンは、子宮けいがんの原因の**80～90%**を防ぎます。
- ・ がんになる手前の状態が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かってきています。

HPVワクチンのリスク

- ・ 接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。
- ・ ワクチンの接種を受けた後に、まれにですが重い症状が起こることがあります。ワクチンが原因となったものかどうかわからないものをふくめて、接種後に重篤な症状として報告があったのは、ワクチンを受けた**1万人あたり約5～7人※**です。

※2価および4価ワクチンは約5人、9価ワクチンは約7人

HPVワクチンを受けていても2年に1度検診を受けることが大切です。